

平成22年度第12回 公立大学法人熊本県立大学教育研究会議 議事録

日 時：平成23年2月21日（月）10時00分～12時00分

場 所：公立大学法人熊本県立大学大会議室

出席：学長	古賀 実
副学長	半藤 英明
事務局長	益田 和弘
文学部長	山田 俊
環境共生学部長	有蘭 幸司
総合管理学部長	三浦 章
地域連携センター長	篠原 亮太
学術情報メディアセンター長	津曲 隆
アドミニストレーション研究科長	黄 在南
熊本県公立高等学校長会会長	眞開 純洋
前熊本近代文学館館長	河原畑 廣
学校法人昭和女子大学理事	渡辺 満利子

オブザーバー：

文学研究課長	村里 好俊
環境共生学研究科長	堤 裕昭

事務局：

三角事務局次長、林田教務入試課長、馬場総務課長、高橋学生支援課長、阪本企画調整室長、田中学術情報メディアセンター事務長、枝國地域連携センター事務長、林企画調整室主幹、教務入試課木村教務班長、同課澤田参事

1 開会（進行：三角次長）

2 学長挨拶

3 議事（議長：古賀学長）

（1）審議事項

① 平成23年度入学者選抜における合格者の決定について

・私費外国人留学生特別選抜

事務局教務入試課から、平成22年度入学者選抜における合格者の決定について、資料1-1に基づき、「私費外国人留学生と、大学院の春季募集について、いずれも試験は2月5日土曜日に行われた。私費外国人留学生の志願者は学部合計で10名、受験者数

7名、志願者の国籍は全員中国籍。各学部で合否判定を行っていただいた。」との説明があり、続けて、山田文学部長から、資料1-2（会議後回収）に基づき「日本語日本文学学科には1名の志願者があり、1名が受験したが、英語力が足りず入学後ついていくのが難しいことから不合格としたい。」との説明があった。

続いて、有菌環境共生学部長から、資料1-2（会議後回収）に基づき「環境資源学科には1名の志願者があり、1名が受験したが5割を超しておらず不合格としたい。居住環境学科には1名が志願したが欠席された。食健康科学科は志願者2名であったが1名が受験した。5割に達しておらず不合格としたい。」との説明があった。

続いて、三浦総合管理学部長から、資料1-2（会議後回収）に基づき「志願者は5名で、うち4名が受験した。6割に達していない2名を不合格とし、2名を合格としたい。」との説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

・大学院文学研究科春季募集

事務局教務入試課から、資料1-1に基づき「日本語日本文学専攻は募集定員2名に対し、志願者が6名で全員が受験した。英語英米文学専攻は募集定員2名に対し、志願者は3名で全員が受験した。」との説明があった。

続いて、村里文学研究科長から、資料1-3（会議後回収）に基づき「日本文学専攻博士前期課程は、外国人留学生特別選抜は5名が受験し1名を合格とし、学術奨励賞特別選抜は1名が受験し1名を合格とし、あわせて2名を合格としたい。秋季募集で4名入学手続きをしているので、あわせて6名とした。英語英米文学専攻博士前期課程は、一般選抜に現役の4年生が3名受験したが、いずれも基準点を上回っているため3名とも合格としたい。秋季募集で合格した6名のうち2名が辞退したが、入学手続きをした4名と合わせて7名となる。辞退した者のうち1名は高校の教員に合格した。日本語日本文学専攻の博士後期課程は募集定員1名に対し志願者が2名あり2名が受験した。うち基準点を上回った1名を合格としたい。英語英米文学専攻の博士後期課程には志願者がなかった。」との説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

・大学院環境共生学研究科春季募集

事務局教務入試課から、資料1-1に基づき「博士前期課程は、一般選抜に9名が志願し全員が受験した。社会人選抜に1名が志願し1名が受験した。外国人留学生特別選抜に1名が志願し1名が受験した。博士後期課程は、一般選抜に5名が志願し5名が受験した。社会人特別選抜には2名が志願し2名が受験した。」との説明があった。

続いて、堤環境共生学研究科長から、資料1-4（会議後回収）に基づき「一般選抜は、9名受験したが、基準点を上回った5名を合格としたい。社会人特別選抜は、1名が

受験したが、基準点を上回っており合格としたい。外国人留学生特別選抜は、1 名が受験。英語の先生をしていた方で、日本語もよくできており、基準点を上回っており合格としたい。博士後期課程は、一般選抜に 5 名が受験し、基準点を上回っており 5 名とも合格としたい。社会人特別選抜は、2 名が受験し、基準点をはるかに上回っており 2 名とも合格としたい。」との説明があった。

審議の結果案のとおり承認した。

・大学院アドミニストレーション研究科春季募集

事務局教務入試課から、資料 1-1 に基づき「博士前期課程は、一般選抜に 2 名が志願し、全員が受験した。社会人特別選抜には、11 名が志願し 10 名が受験した。博士後期課程は、社会人特別選抜に 4 名が志願し、4 名が受験した。」との説明があった。

続いて、黄アドミニストレーション研究科長から、資料 1-5 (会議後回収) に基づき「博士前期課程一般選抜には 2 名が受験したが、総点の 6 割を超えた 1 名を合格としたい。社会人特別選抜には 10 名が受験したが、全員が 6 割をクリアしているので 10 名を合格としたい。博士後期課程は、社会人特別選抜を 4 名受験したが、うち 1 名の面接点が 6 割に達しておらず、3 名を合格としたい。」との説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

事務局教務入試課から、平成 23 年度大学院研究科出願状況について、「平成 23 年度の大学院の出願状況は、定員 61 名に対して、59 名の充足になっている。」との説明があった。

② 教員の採用について

環境共生学部の教員の採用について、事務局総務課から、資料 2 に基づき「環境共生学部の教員 4 名について、環境資源学科、海洋資源学 1 名、職位は講師、環境分析化学 1 名、職位は助教、食健康科学科、環境生理学 1 名、職位は准教授、給食経営管理学 1 名、職位は助手。いずれも採用予定年月日は平成 23 年 4 月 1 日。環境分析化学の助教以外については、平成 22 年度に枠取りが行われた。環境分析化学については、昨年度枠取りをしていたもの。平成 23 年 1 月 31 日に開催された、全学資格審査委員会で、それぞれの職位は適当であるという承認を得ている。」との説明があった。

・環境資源学科 (海洋資源学)

有菌環境共生学部長から、資料 2-1 (会議後回収) に基づき、「海洋資源学の採用については、28 件の応募があり、2 名に絞り込み、プレゼンテーションを行った。研究歴 9.8 年、原著論文 12 報、著書 12 編の業績、現在ポスドク相当であることから講師とすることにした。大和田教授の後任として。大和田先生のこれまでやってきたことを継

承できる人ということをお勧めした。」との説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

・環境資源学科（環境分析化学）

有菌環境共生学部長から、資料 2-2（会議後回収）に基づき、「環境分析化学の採用については、15 件の応募があった。教育暦等について、年齢を審議して、2 名を選抜してプレゼンテーションを行った結果、小林氏を助教として採用することとした。研究歴 11 年、原著論文 10 報の業績から、助教の採用としたい。」との説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

・環境生理学

有菌環境共生学部長から、資料 2-3（会議後回収）に基づき「福岡先生の後任になる。環境生理学の採用については、15 件の応募があった。全学体育を担当することも加味する必要があるということで、まず 4 名を選抜し、面接を行った。全学の体育関連の管理運営や、管理栄養士のプログラムもあって、そういう面をプレゼンテーションで質問した。環境共生学、大学の講義指導に十分対応できる医学部の大学院の教員であるということで、松本氏にお願いすることとした。ただ、最近の論文が 2 報しかなく、これだと大学院の前期課程の資格がないのではないということで心配したが、1 月の末の段階で論文が 1 報アクセプトされたという情報を得た。直近 5 年間で 3 報ということで、大学院の講義に関しては再審査になるが、合致しているという確認は得られた。科研費もとっておられる。現在講師であるが、准教授として採用したい。」との説明があった。

半藤副学長から、「1 月 31 日に開催した、第 6 回全学審査委員会で、学部長から提案のあった採用候補者について審査を行い、提案どおり承認した。」との報告がなされた。

審議の結果、案のとおり承認した。

・給食経営管理学

有菌環境共生学部長から、資料 2-4（会議後回収）に基づき、「応募が 2 名しかなかった。うち 1 名は既発表論文がなく、研究歴も評価できない状態であったため、1 名を候補者とした。修士課程を修了後、私学の助教までしていた方で、プレゼンをしていただいた。現在、前任者の後任として研究助手をしている。研究歴 5 年、原著論文 3 報、著書 2 編、助手としての専攻基準を満たしている。学会活動もきちんとされている。博士の後期課程の入学試験を受けているので、4 月から社会人ドクターとして勉強することになっている。」

審議の結果、案のとおり承認した。

③ 「もっこすプラン2011」について

事務局企画調整室から、もっこすプラン2011について、資料3に基づき、「12月末から策定に着手している。本日は途中経過の報告である。今までの取組を検証して、中期計画を達成しているかどうかという視点で点検を行っている。自己点検の状況であるが、達成済みが170項目、未達成が9項目。未達成の項目は、文学部英語英米文学科のTOEIC800点。管理栄養士の合格率90%以上、図書館日曜開館（今年度は試行段階）、科研費80%で未達成、地域課題についての地域企業等との共同研究、教員対象の任期制の導入、科研費等の全教員の申請、受託。以上の9項目については特に取り組んでいく必要があると考えている。平成23年度の重点実施項目は、大きく3つの項目がある。(1) 地域に根ざし、世界を見据える教育研究のステップアップとして、大学院10月入学制度の実施に向けた準備、就業力育成支援事業の活用、英語による教育プログラム開発の可能性について全学部で検討、(2) 学生ニーズ、社会情勢に対応した学生サービスのステップアップとして、図書館の日曜会館、語学学習支援室 LLC(Language Learning Commons)の整備、緊急的な就職対策事業の実施、保健センターへの抜本的な改善を、(3) 自立と自律を基本とした大学運営のステップアップとして、外部資金申請等の際、審査経験者等からなる助言を受けられる仕組みを整備、県立大学未来基金の今後の方向を決定、CPD教育に係る推進体制の整備、テニユア制を前提にした任期制の導入の合意形成、法人独自の事務職員の採用、SD研修の実施などが主な項目である。A4横表のものはリニューアルして、3月にご審議いただく予定。」との説明があった。

(2) 報告事項

① 平成23年度一般入試の出願状況について

事務局教務入試課から、平成23年度一般入試の出願状況について、資料4に基づき「平成23年度一般入試について、文学部は、日本語日本文学科が昨年度に比べて21名増、英語英米文学科が87名減、環境共生学部は、環境資源学科が57名減、居住環境学科が44名増、食健康科学科が31名の減、総合管理学部が264名の減であった。大学全体では374名の減で、志願者数は1808名。最終的な倍率は5.2倍となっている。昨年度は、開学以来最高の2181名、倍率が6.2倍だったが、一昨年度の平成21年度が1618名、倍率が4.6倍、平成20年度が1,447名の4.1倍で、1808名というのは決して少ないわけではなく、かなり出願していただいている。7ページに平成23年度の志願者数の全体を表にまとめている。」との説明があった。

② 平成23年度教員免許状更新講習の開設について

事務局教務入試課から、平成23年度教員免許状更新講習の開設について、資料5に基づき「開設計画としては、必修領域で2科目、教育の最新事情とその理論的背景が定員50名、2講座で合計100名。選択領域は10講座。国語科教員を対象とするものが1講座、

英語科教員を対象とするものが1講座、全教員を対象とするものが8講座で、環境教育に関するものが5講座、環境資源に関するものが3講座、食に関するものが2講座、ICTで3講座、定員は合計で300名。教員免許状更新講習は平成21年度から始まり、平成21年度は定員650名で開設。平成22年度は政権交代に伴い、民主党のマニフェストで更新講習見直しとなっていたため、定員を200名としたが、来年度は今のところ文部科学省が必ず実施するとしていることから、定員を400名とした。今後のスケジュールとしては、来月初旬に文部科学省に認定申請、5月中旬に募集開始、8月に講習を実施する予定である。」との説明があった。

4 その他

○次回以降の日程の確認

3月4日（月）午前11時、3月14日（月）午後2時半、3月21日午前11時

○来年度の日程予定表の配布

5 閉会